

5. 総括

耐候性鋼橋の適切な維持管理のための診断において、さびの的確な評価を行うために、耐候性鋼橋のさびに関する既往の様々な表面性状の事例や実橋のデータを収集・分析し、一般的に見られることの多いさびの外観性状について体系的にとりまとめた。さびの的確な評価のためには、さびの立体的形状や大きさ、および色調を正確に把握することの重要性を確認し、カラーアナグリフ写真、および色調補正を行った近景写真による正確な記録方法を検討した。検討した記録方法により実際の耐候性鋼橋から 120 のさび事例を収集・記録・整理し、点検時に実際のさびと正確な照合を行うことが可能な事例集を作成した。

また、本研究で検討したさびの記録方法については、同じ橋の同じ部位のさびを記録し続けることで、さびの進行性を確認するなどの活用方法も考えられる。

今後は、さびの凹凸を定量的に評価した研究^{5.1)}と組み合わせて、さびの外観性状の評価の信頼性を高めていくことや、耐候性鋼橋の適用環境評価手法^{5.2),5.3)}と組み合わせて、さびの評価と環境の評価の両面からのより適切な維持管理手法の構築を進めることが考えられる。

5 章参考文献

- 5.1) 例えば、森田千尋，武崎啓太，松田浩，牧野高平：3次元写真計測による耐候性鋼橋梁の外観評価に関する研究，実験力学 Vol.12 No.3，pp.173-178，2012.9
- 5.2) 国土技術政策総合研究所：国土技術政策総合研究所資料 No.777 耐候性鋼橋の適用環境評価手法の高度化に関する研究（Ⅰ）－耐候性鋼材の適用環境評価手法に関する検討－，2014.1
- 5.3) 国土技術政策総合研究所：国土技術政策総合研究所資料 No.778 耐候性鋼橋の適用環境評価手法の高度化に関する研究（Ⅱ）－凍結防止剤散布の影響に関する検討－，2014.1